

北杜市立白州中学校への感想2-3

ジェンダーレス制服について

〔生徒の皆様へ〕

- ジェンダーレス制服に関するためになるお話ありがとうございました。私は今までジェンダーレス制服は、着ているものがみんなと違うことが目立ってしまうことが弱点だと思っていました。しかし、男女共通のデザインにすることで目立ってしまい強調されることもなくなるので良いと思いました。
- ジェンダー問題という大きなテーマから自分たちの身近な問題に焦点を当ててジェンダーレス制服について調べるという視点がいいと思いました。ジェンダーレス制服を取り入れるべきかというアンケートで分からないと回答している人も多くいたので、実行よりもまずジェンダーレス制服について知ってもらうことが大事だと思いました。
- 自分の在籍していた高校もジェンダーレス制服が導入されてから着用する人が多くいたので、現代社会に需要のあるいい主題だと思いました。また、自分たちでオリジナルのジェンダーレス制服などを考えてみたら理解がさらに深まるのではないかと思います。
- ジェンダーの観点から見て、女性と男性の扱いにはまだ差別があり生きにくい思いをしている人がいることが分かりました。そんな中で現在では性別の違いが目立たないようなジェンダーレス化された商品が多く開発されていて、そのような変化により少しずつジェンダーの多様性が生まれてきていることが分かりました。素晴らしい発表をありがとうございました。
- 学校でのジェンダー問題はとても繊細で難しいと思います。しかし少しでも性的少数派の生徒を守るためには、制服や水着などの配慮をする必要があると改めて感じました。実際私の高校でも女子のスラックスが採用されていましたが、水着も配慮できるようなデザインになっていると初めて知りました。
- ジェンダーの観点から見て、女性と男性の扱いにはまだ差別があり生きづらい思いをしている人が多くいるということが分かりました。そんな中で、現在では性別の特徴の違いが目立たないようなジェンダーレス化された商品が開発されていて、そのような変化により少しずつジェンダーの多様性が生まれてきていることが分かりました。素晴らしい発表をありがとうございました。
- SDGsの中から、自分自身にとって一番身近な目標を取り上げ、探究を展開していることから、主体的な学びができていて、素晴らしいと思いました。提言として述べていましたが、ジェンダーレスをアピールするのではなく、制服の組み合わせをアピールするといった考えが全国的に広まると良いと思いました。この考えは、ジェンダーレス制服についての様々な問題を解決することにもつながるといったことが分かり、深くまで探究していることが伝わってきました。自分の学校の生徒や先生から、アンケートをとり、様々な人の意見を基にした探究ができていて、良いと思いました。これからも、全ての児童生徒が自分自身の望む制服を着用して、楽しい学校生活を送ることができるよう、探究を続けてください。ありがとうございました。頑張ってください。
- 私もこれから教員になるにつれて、ジェンダーについてしっかりと考えておく必要があると思った。制服の男女の違いがあると思う。私の中学校では、男子は学ラン、女子はブレザーと決められていた。私は

このことを当たり前だと思っていたが、この違いを生活しにくいと考える人もいることが分かった。学校は誰もが生活しやすい場所であるべきだ。

- どうして日本は差別がなくなるのかという大きな題材に様々な視点から考えているところが素晴らしいと思いました。先進国の7か国のうち5か国は同性婚を認めているにも関わらず、日本は認めていないと知り、独自の文化が根付いてしまっていることを改めて感じました。賛成の中にもどちらかと言えば賛成という意見も含まれている事に注目しているところがすごいと思いました。差別をなくすために、良いところや方法を考えるだけでなく、同性婚の課題なども調べて、考える事はとても大切な事だと思います。一人の人として相手を尊重することの大切さを改めて学ばせていただきました。イタリアはどうして同性婚が認められていないのか調べてみると、日本と共通することや違った背景が見えてきて、日本の差別解消に役に立つかもしれないと思いました。
- ジェンダーレス制服のデメリットにも着目し、「ジェンダーレス制服ですよ」ではなく「組み合わせは自由ですよ」という表現の方が良いことに気づいていた点が素晴らしいと思いました。ほかにも学校に潜むジェンダーによる差別はないか、探して改善できたら面白いと思いました。
- 自分たちが普段着ている制服について、それらの性差について調べ、できるだけジェンダーレス制服を着ている人たちが不当な差別を受けないようにどうしたらよいか考えている姿がとても素晴らしいと思いました。「ジェンダーレス制服」という言葉は性差に配慮しているように見えて、逆にそれをカミングアウトしているようなものになっているという考え方はまさにその通りだと思います。だからこそ最後の、「ジェンダーレスではなく、組み合わせ自由なことをアピールする」という意見に、とても感動しました。「男だから」「女だから」ではなく、自分が着たいと思える制服を好きなように着られる、そんな学校を作れるように、そしてそんな意識を持った教師、生徒を増やしていけるといいですね。

〔教職員の皆様へ〕

- 身近なところからジェンダーの課題に向き合うその取り組みが、生徒の自己効力感を育むと思いました。特に面白いのは、ジェンダーレス制服をアピールするのではなく、組み合わせが増えるという考えをしているところです。つい私たちは、やっている感で満足してしまいがちですが、きちんと当事者のことを考えられていると感じました。